

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3670101066		
法人名	社会福祉法人 平成記念会		
事業所名	グループホーム勝占		
所在地	徳島県徳島市勝占町松成43-1		
自己評価作成日	令和2年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和2年11月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> グループホーム内の勉強会を充実させる為、e-ラーニングを導入している。 良いことも悪いことも含め家族様には現況をお伝えし、家族様と一緒に本人様にとって最善の策を考えるようにしている。 家族様面会時には積極的に関わりを持ち、話しや相談がしやすい関係作りにも努めている。 現在は新型コロナウイルスの感染予防の為、外出やボランティアの受け入れを自粛しておりグループホーム内に留まった生活となっているので、少しでも気分転換が図れるよう新しいレクリエーションや行事の内容を考え取り入れている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は、同一法人の運営する協力医療機関や他サービス事業所等と同一敷地内に位置しており、連携を図っている。24時間の医療連携体制を整備し、利用者や家族等の安心につながっている。職員は、事業所独自の理念にそって、家庭的な雰囲気の中で、利用者が「自由」「尊厳」「喜び」のある生活を送ることができるよう、日ごろのケアに取り組んでいる。家族との関わりを大切にしており、感染症(コロナ等)の流行下においても、メールを活用し、家族等に利用者の日ごろの様子を伝え、意見や要望を引き出している。気候の良い日には、車イスを利用する方も含め、全員が出かけられるよう、時間帯を変えて近隣の散歩に出かけている。管理者は、職員満足度調査を実施したり、e-ラーニングを活用し、勉強会の充実を図ったりして、職員の働く意欲向上を目指している。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り掲げている。エレベーター前に掲示すると共に、職員は名札の裏に理念を書いた紙を携帯し、常に理念を念頭におき業務にあたるよう努め、年に1度は職員と管理者が個別に面談し理念について話しをする機会も設けている。	事業所では、開設当初に作成した事業所独自の理念を大切にしている。職員間で話しあい、理念に基づいた目標も作成している。理念と目標は、エレベーター前に掲示している。職員は、理念を支援の原点として、日々の支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを受け入れたり、例年春に法人主体でお祭りを開催したりしているが、今年は新型コロナウイルスの感染予防の為、実施できていない。事態が終息したらまた積極的にボランティアを受け入れる考えである。	事業所では、ボランティアや小、中、大学生等の来訪を受け入れている。感染症(コロナ等)の流行下においては、近隣や敷地内の売店に出かけた際にあいさつを交わすなどして、交流を継続している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は2ヶ月に1度開催し、地域住民・入居者様のご家族様・徳島市地域包括支援センター担当者が出席してくれ、現状報告や意見交換を行っているが、今年4月の会議からは新型コロナウイルスの感染予防の為、書面会議となっている。	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症の流行に伴い、書面による会議を行っている。資料を郵送し、FAXで助言や意見をもらっている。出された意見は議事録にまとめ、職員間で共有し、サービスの質の向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは行き来することは少ないが、書類提出の際には窓口に出向き直接話しをするようにし、疑問が生じた際には電話や窓口で尋ねるようにしている。(現在は窓口へ行くことは控えている)	管理者は、定期的に市担当窓口に出向き、書類提出や事業所の状況報告を行っている。地域包括支援センターには、事業所だよりを送付し、運営や現場の実情を伝えている。また、電話等でも相談し、助言を得るなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH内で身体抑制禁止委員会を立ち上げ、毎月1回委員会メンバーで話し合いの場を設けている。話し合った内容は議事録にまとめ全職員に周知すると共に、職員が抑制を体験したり、学んだりする機会も設けている。	事業所では、月1回、身体抑制禁止委員会を開催している。拘束にあたる行為を実際に職員が体験することで、禁止となる具体的な行為を正しく理解している。全職員で意識の共有化を図りつつ、言葉のかけ方に配慮するなど、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことを念頭に業務にあっている。また、勉強会を開催し虐待に関して学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されていた方がいた為、概ね理解することはできている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や改定の際にはゆっくりと時間を取り、内容を読み上げ説明を行い同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口担当者、解決責任者をおき、重要事項説明書に明記、契約時に何かあればいつでも相談して欲しい旨を伝えている。また、家族会を開催し意見交換の場を設けたり、意見箱も設置したりしている。	職員は、感染症の流行下においても、電話連絡をしたり、事業所だよりや行事の写真等を送付したりして、家族等から意見を聞いている。オンライン面会等の機会にも、意見を聞いている。出された意見は、申し送りノート等で共有し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンス・申し送りノートを活用し職員の意見を聞き、取り入れるようにしている。また、管理者は定期的に会議に出席し代表者と話し合いの場を持っている。	管理者は、職員満足度調査を行ったり、個別に意見を聞く機会を設けたりして、職員の意見や提案を聞いている。代表者が事業所へ来訪し、職員が直接意見を伝える機会もある。出された意見は、検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を見極め役割を持つことで、やりがいを持ち意欲的に業務に就くことができると考える。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会開催時には積極的に参加し、知り得た知識を職員全員で共有し、内容に応じレポートの提出も促している。また同じ職員ばかりが行くのではなく、皆が交代で参加できるよう配慮している。E-ラーニングも導入している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加を通して、他事業所の職員と交流する機会を設けている。また、交流することで良い刺激を受け、サービスの質の向上に繋がると考えている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、本人の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、家族の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今どのような支援を必要としているかを見極め、意向に沿った対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と衣食住を共にすることで、入居者自身も役割を持ち生活していただけるよう努めている。洗濯物たたみやお盆拭き等積極的に手伝っていただけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員と家族が情報共有できるよう会話・近況報告を行い、本人のことを一緒に考える時間を持つようにしている。また、年に1度、家族会を開催し話し合いの場を設けているが今年の開催は見送る予定である。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子の面会が頻繁にある。また家族と一緒に散歩に出かけたり、スマホやタブレットで県外の孫の写真や動画を一緒に見たり、職員にも見せてくれることがある。	事業所では、感染症の流行下においても、オンライン面会等を導入して、馴染みの人との関係継続を支援している。電話のやり取りも支援している。今年は、利用者から家族等に向けて年賀状を出すことも検討している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士協力をし合って家事や脳トレ・作業に取り組む等、日常的に関わり協力し合えていると思われる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても相談等があれば話しをお伺いし、退居されても関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から希望や意見を聞くよう努めている。また家族から話を聞いたり、昔の写真を見せていただくことで本人の今までの暮らしや思いを汲み取り、日常生活の中に取り入れるようにしている。	職員は、入浴介助の際等、利用者と一対一で話す機会を大切に、希望や意向の把握に努めている。意思の表出が困難な利用者には、筆談やジェスチャーを交えたり、表情等からくみ取ったりして、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴をお聞きし、職員間で情報の共有を行っている。また、部屋に置いているアルバムを見せてもらいながらお話を伺うこともある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を通して、日々の体調管理を行うと共に、個々の生活リズムを掴みその人らしい暮らしが送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の面会時に意見や要望をお聞きし、本人の意見も確認しながら介護計画を作成している。	事業所では、利用者や家族の希望を踏まえた、介護計画を作成している。医師や栄養士、看護師、薬剤師、リハビリテーション関係者等の意見も聞いている。定期的な見直しのほか、利用者の心身状況の変化に応じて見直しを行い、現状に即した介護計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は電子カルテに記録し、職員間での閲覧が可能となっている。また口頭での申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養や同敷地内の多様なサービス担当者や連携を図りながら、様々なニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に受け入れたり、戸外に出かけたりとホーム内のみには止まらず外にも目を向けた支援を心がけているが、現在は新型コロナウイルスの感染予防の為、外出は控えている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いした上で、希望し納得のいく医師に診ていただくことが可能である。また契約時に主治医を確認している。	事業所では、利用者や家族等の希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医の受診は、家族等の協力を得ている。2週間に1回の協力医の往診のほか、感染症の流行状況によって、オンラインでの受診も取り入れ、適切な医療の受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養に看護師がおり、日常的及び緊急時の対応が可能である。また協力病院が併設しており、病院の看護師にも24時間相談・助言を求めることが可能である。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同敷地内に病院を併設しており、入院時には情報提供を行いスムーズな入院・情報把握ができるよう努めている。また、担当者と連携を図りながら、早期に退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の主治医と連携を図りながら、入居者・家族の意向をお伺いし、最善の支援を考えるよう努めている。	入居時の段階で、重度化や終末期における事業所の方針について利用者や家族等に説明し、同意を得ている。利用者の心身状況の変化に応じて、再度、意向を確認している。利用者一人ひとりのかかりつけ医と連携し、対応方針の共有化を図っている。年1回、看取りに関する勉強会を開催し、職員間の理解を深めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には看護師に相談したり、同敷地内の病院を受診し対応している。ホーム内でも緊急時の対応等について勉強する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災避難訓練を実施している。自主訓練や消防署立会いの下訓練を実施し、指導を仰いでいる。また、同敷地内の施設職員とも協力体制を築いている。	年3回、消防署の協力を得て、日中と夜間の火災や大規模地震を想定した、防災避難訓練を実施している。訓練での気づきは職員間で共有し、次の訓練で活かすことができるよう取り組んでいる。併設施設の職員とも協力体制を整備し、災害時に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪室時には必ずドアをノックし返答があつてから入室したり、排泄の際は声かけや必ず居室のドアを閉める等プライバシーや羞恥心を損ねないよう心がけている。	職員は、利用者一人ひとりの気持ちを尊重し、穏やかな言葉かけや対応を心がけている。利用者の居室のドアが開いたままになっているときなどにも職員間で声をかけあい、プライバシーの確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人が選択できる機会を設け、希望を聞いたり、決定する機会を設けるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないよう、入居者本位を心がけ対応するよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡の前で整容ができるよう声かけと支援を行っている。また、髪の毛を切ったり、新しい洋服を着たりした時には声をかけ、身だしなみを意識できるよう努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの1つとなるよう、できることは手伝っていただいたり、職員も一緒に会話をしながら食事を摂ったりしていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止の為に控えている。	事業所では、音楽を流しつつ、ゆったりした雰囲気の中で食事を提供している。利用者に食べたいもののアンケートをとり、一緒におやつ作りを行っている。感染症の流行下においては、テーブルに仕切りを設置するなど、感染症予防対策を徹底している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の毎食事・水分摂取量をチェックしている。管理栄養士と相談し栄養バランスの取れた献立となっており、個々に応じた食事形態で提供している。また、介護職員が栄養スクリーニングを行い栄養状態の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけを行い、自己にて歯磨きが可能な方には行っていただき、難しい方は職員が介助や義歯の洗浄を行っている。不調時には歯科医の往診も可能となっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがあればその都度トイレ誘導し、訴えの難しい方は定期的に声かけしトイレ誘導を行っている。できる限りトイレで排泄できるよう支援している。	職員は、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。日中は、さりげない声かけで誘導し、トイレでの排泄を支援している。夜間は、無理強いせず、利用者の希望や状況にあわせた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状態を確認し、便秘にならないよう水分補給と適度な運動を促している。また主治医に相談の上、内服薬の処方も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただいている。体調不良や行事等で入浴できない場合には、時間帯や曜日を変更し、入浴していただけるようにしている。湯の温度や洗身用タオルの種類等その方の希望に沿えるよう努めている。	事業所では、少なくとも週3回の入浴を支援している。利用者の心身状況に応じて、シャワー浴と足浴を組み合わせるなどして、冷えを感じることがないように配慮している。入浴を拒む利用者には、声かけのタイミングや職員を変えるなどして、無理強いすることなく入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人が状況に応じて睡眠がとれるよう配慮している。また、夜間なかなか眠れない時には、ホールで一緒にテレビを観たり話しをし時間をかけ入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬の内容がすぐに確認できるよう、詰所の目のつく場所に薬情をまとめたファイルを保管している。また、併設病院の薬剤師と連携を図り、相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人のできる事、楽しみを見出し脳トレや散歩、読書、体操等日常生活の中に取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて外出できるよう努めていたが、現在外出は控えている。	事業所では、気候の良い日に、近隣を散歩したり、敷地内の売店に買い物に行ったりしている。敷地内で、季節の花を摘み、テーブルに飾ることもある。車イスを利用する方も散歩できるよう、時間帯を変えるなどして、全員が外気に触れ、気分転換できるよう工夫している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			旧館 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者からお預かりしているお金は金庫で保管している。買い物に行った際にはその中から自分で支払ってもらう等、自分でお金を使う機会を設けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	公衆電話がない為、電話をする際は詰所の電話を使用していただいている。県外の家族とはオンライン面会も可能となっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの壁には季節の作品や月のカレンダーを飾り、建物内に居ても季節を感じることができるよう配慮している。また、テレビや音楽の音、空調にも配慮し、快適に過ごすことができるよう心がけている。	共用空間は、大きな窓から日が差し込み、明るく、眺めが良い。壁面には、紅葉の貼り絵等、季節に応じた飾り付けを行い、季節感がある。利用者がテレビを見ながら横になれるように畳を敷いたり、窓辺にソファを置いたりして、利用者がリラックスして過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールを囲むようにそれぞれの居室が配置されており、ホールにはソファのコーナーとテーブルのコーナー・畳のコーナーを設け、好きな場所で過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用されていた家具・小物・写真を持ってきていただき思い思いの居室作りをしていただいている。	居室には、利用者一人ひとりの使い慣れた家具や大切にしている思い出の品等を持ち込んでもらっている。家族が来訪した際に、ゆったり過ごすことができるよう、来客用のイスを置くなど、居心地の良い居室づくりに取り組んでいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、車椅子や歩行器でも安全に移動できるようになっている。またホールや居室トイレには手すりを設置している。その方のADLに応じてトイレ内にベスポジパーやたちあっぷを設置している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を作り掲げている。エレベーター前に掲示すると共に、職員は名札の裏に理念を書いた紙を携帯し、常に理念を念頭におき業務にあたるよう努め、年に1度は職員と管理者が個別に面談し理念について話しをする機会も設けている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のボランティアを受け入れたり、例年春に法人主体でお祭りを開催したりしているが、今年は新型コロナウイルスの感染予防の為、実施できていない。事態が終息したらまた積極的にボランティアを受け入れる考えである。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の方への理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	通常は2ヶ月に1度開催し、地域住民・入居者様のご家族様・徳島市地域包括支援センター担当者が出席してくれ、現状報告や意見交換を行っているが、今年4月の会議からは新型コロナウイルスの感染予防の為、書面会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所の担当者とは行き来することは少ないが、書類提出の際には窓口に出向き直接話しをするようにし、疑問が生じた際には電話や窓口で尋ねるようにしている。(現在は窓口へ行くことは控えている)		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	GH内で身体抑制禁止委員会を立ち上げ、毎月1回委員会メンバーで話し合いの場を設けている。話し合った内容は議事録にまとめ全職員に周知すると共に、職員が抑制を体験したり、学んだりする機会も設けている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待は絶対にあってはならないことを念頭に業務にあたっている。また、勉強会を開催し虐待に関して学ぶ機会を設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業を利用されていた方がいた為、概ね理解することはできている。					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結や改定の際にはゆっくりと時間を取り、内容を読み上げ説明を行い同意を得ている。					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口担当者、解決責任者をおき、重要事項説明書に明記、契約時に何かあればいつでも相談して欲しい旨を伝えている。また、家族会を開催し意見交換の場を設けたり、意見箱も設置したりしている。					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送りやカンファレンス・申し送りノートを活用し職員の意見を聞き、取り入れるようにしている。また、管理者は定期的に会議に出席し代表者と話し合いの場を持っている。					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の能力を見極め役割を持つことで、やりがいをもち意欲的に業務に就くことができると考える。					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や勉強会開催時には積極的に参加し、知り得た知識を職員全員で共有し、内容に応じレポートの提出も促している。また同じ職員ばかりが行くのではなく、皆が交代で参加できるよう配慮している。E-ラーニングも導入している。					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等への参加を通して、他事業所の職員と交流する機会を設けている。また、交流することで良い刺激を受け、サービスの質の向上に繋がると考えている。					

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、本人の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用に至るまでに、ゆっくりと話しをする機会を設け、家族の困っていることや悩み・希望をお聞きし、意向に沿えるよう努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が今どのような支援を必要としているかを見極め、意向に沿った対応を心がけている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者と衣食住を共にすることで、入居者自身も役割を持ち生活していただけるよう努めている。自分の洗濯物は自分でたんでいただき、たたむのが難しい方の分は周りの方が手伝っている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には職員と家族が情報共有できるよう会話・近況報告を行い、本人のことを一緒に考える時間を持つようにしている。また、年に1度、家族会を開催し話し合いの場を設けているが今年の開催は見送る予定である。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	子の面会が頻繁にあり、面会時に一緒に散歩に出かけている。行事開催時には一緒に参加してくれることもある。(現在、家族を交えての行事開催は控えている)			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が声をかけ合い共に行動したり、同じテーブルを皆で囲み会話を楽しむ姿を見ることができている。			

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居されても相談等があれば話しをお伺いし、退居されても関係を断ち切らない支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の何気ない会話から希望や意見を聞くよう努めている。また家族から話しを聞くことで本人の今までの暮らしや思いを汲み取り、日常生活の中に取り入れるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人や家族から生活歴をお聞きし、職員間で情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックや様子観察を通して、日々の体調管理を行うと共に、個々の生活リズムを掴みその人らしい暮らしが送れるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスや家族の面会時に意見や要望をお聞きし、本人の意見も確認しながら介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は電子カルテに記録し、職員間での閲覧が可能となっている。また口頭での申し送りや申し送りノートを活用し職員間で情報を共有し、介護計画に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	併設の特養や同敷地内の多様なサービス担当者連携を図りながら、様々なニーズに対応できるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	自己評価
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアを積極的に受け入れたり、戸外に出かけたりとホーム内のみならず外にも目を向けた支援を心がけているが、現在は新型コロナウイルスの感染予防の為、外出は控えている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向をお伺いした上で、希望し納得のいく医師に診ていただくことが可能である。また契約時に主治医を確認している。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養に看護師がおり、日常的及び緊急時の対応が可能である。また協力病院が併設しており、病院の看護師にも24時間相談・助言を求めることが可能である。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	同敷地内に病院を併設しており、入院時には情報提供を行いスムーズな入院・情報把握ができるよう努めている。また、担当者と連携を図りながら、早期に退院できるよう努めている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	個々の主治医と連携を図りながら、入居者・家族の意向をお伺いし、最善の支援を考えるよう努めている。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変時には看護師に相談したり、同敷地内の病院を受診し対応している。ホーム内でも緊急時の対応等について勉強する機会を設けている。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回防災避難訓練を実施している。自主訓練や消防署立会いの下訓練を実施し、指導を仰いでいる。また、同敷地内の施設職員とも協力体制を築いている。			

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪室時には必ずドアをノックし返答があつてから入室したり、排泄の際は声かけや必ず居室のドアを閉める等プライバシーや羞恥心を損ねないよう心がけている。					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的に本人の希望を聞いたり、決定する機会を設けるよう努めている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務を優先することのないよう、入居者本位を心がけ対応するよう努めている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝鏡の前で整容ができるよう声かけと支援を行っている。また、髪の毛を切ったり、新しい洋服を着たりした時には声をかけ、身だしなみを意識できるよう努めている。					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみの1つとなるよう、できることは手伝っていただいたり、職員も一緒に会話をしながら食事を摂ったりしていたが、現在は新型コロナウイルス感染防止の為、控えている。					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人一人の毎食事・水分摂取量をチェックしている。管理栄養士と相談し栄養バランスの取れた献立となっており、個々に応じた食事形態で提供している。また、介護職員が栄養スクリーニングを行い栄養状態の把握に努めている。					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自己にて歯磨きが可能な方には行っていたが、難しい方は職員が義歯洗浄等行っている。不調時には歯科医の往診も可能となっている。					

自己	外部	項目	自己評価	自己評価	自己評価
			新館 実践状況	実践状況	実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがあればその都度トイレ誘導し、訴えの難しい方は定期的に声かけしトイレ誘導を行っている。できる限りトイレで排泄できるよう支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排便状態を確認し、便秘にならないよう水分補給と適度な運動を促している。また主治医に相談の上、内服薬の処方も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回入浴していただいている。体調不良や行事等で入浴できない場合には、時間帯や曜日を変更し、入浴していただけるようにしている。湯の温度や洗身用タオルの種類等その方の希望に沿えるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者一人一人が状況に応じて睡眠がとれるよう配慮している。また、夜間なかなか眠れない時には、話しをしたり、ホールで様子を見たりしながら時間をかけ入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者一人一人の薬の内容がすぐに確認できるよう、詰所の目のつく場所に薬情をまとめたファイルを保管している。また、併設病院の薬剤師と連携を図り、相談できる関係にある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者一人一人の生活歴を把握し、趣味や楽しみ事を日常生活の中に取り入れるようしている。皆で歌を歌うことが好きな方が多いので、歌う時間を多く設けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望に応じて外出できるよう努めていたが、現在外出は控えている。		

自己	外部	項目	自己評価	新館	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している		入居者からお預かりしているお金は金庫で保管している。買い物に行った際にはその中から自分で支払ってもらう等、自分でお金を使う機会を設けている。				
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている		公衆電話がない為、電話をする際は詰所の電話を使用していただいている。県外の家族とはオンライン面会も可能となっている。				
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている		ホールの壁には季節の作品や月のカレンダーを飾り、建物内に居ても季節を感じることができるよう配慮している。また、テレビや音楽の音、空調にも配慮し、快適に過ごすことができるよう心がけている。				
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている		ホールを囲むようにそれぞれの居室が配置されており、ホールにはソファのコーナーとテーブルのコーナー、窓際にもソファを置き、好きな場所で過ごせるようになっている。				
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている		自宅で使用されていた家具・小物・写真を持ってきていただき、思い思いの居室作りをしていただいている。				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している		建物内はバリアフリーとなっており、車椅子や歩行器でも安全に移動できるようになっている。またホールや居室トイレには手すりを設置している。自室の場所に迷う方には、居室の前に大きく名前を書き掲示している。				